

# 第4章 イスラム世界

## 1. イスラム世界の形成

### (1). イスラム教の成立

▶ 経済的背景……ササン朝とビザンツ帝国の交戦状態  
→アラビア半島が国際中継貿易独占、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_の繁栄

▶ \_\_\_\_\_ (マホメット、メッカのクライシュ族の商人、570～632)  
610 初めて唯一神\_\_\_\_\_の啓示を授かる  
↓  
教創始……“イスラム”＝唯一神への絶対服従  
“ムスリム”＝イスラム教徒、その共同体＝\_\_\_\_\_

啓典「\_\_\_\_\_」……ムハンマドに下された神の言葉  
生活の規範＝イスラム法(シャリーア)の基礎  
al'Quran = “読み唱えるもの”(アラビア語の韻文になっている)  
従来の多神教・偶像崇拜を、精神の墮落として批難

622年7/16 \_\_\_\_\_ (Hijrah、聖遷)……迫害をうけメッカからメディナへ移住  
＝イスラム暦紀元  
↳純粋な太陰暦(1ヶ月＝29 or 30日、1年＝354日)  
季節がずれて不便なので太陽暦も併用している。

### (2). 教団国家形成

630 メッカ奪回＝アラビア半島統一……アラブ人をイスラム教によって統一  
\_\_\_\_\_をイスラムの聖殿と定める

632 ムハンマド死 → \_\_\_\_\_ (caliph, khalifa = “後継者”)を選出  
政治・宗教上の指導者、但し教義決定権はない

▶ \_\_\_\_\_ 時代(632～661)  
初代アブー・バクル(632-34)、第2代ウマル(634-44)  
第3代ウスマン(644-56)、第4代アリー(656-61)

征服活動開始(\_\_\_\_\_, jihad = “聖戦”)……アラブ人の対外発展  
西: シリア、エジプトをビザンツ帝国より奪う  
東: 642 \_\_\_\_\_の戦い……ササン朝を破る(651滅亡)

661 第4代 \_\_\_\_\_ 暗殺

▶ \_\_\_\_\_ 朝(661～750)  
シリア総督 \_\_\_\_\_ がカリフとなり世襲制に。首都 \_\_\_\_\_

#### ※イスラム教の分裂

\_\_\_\_\_ 派(Sunni)……正統派、ウマイヤ朝以後のカリフを認める  
\_\_\_\_\_ 派(Shiah)……アリーの子孫のみを正統とする

#### 征服活動

東: ソグド地方、西北インド(の嶺越)  
西: 北アフリカからイベリア半島へ  
711 \_\_\_\_\_ 王国を滅ぼす  
732 \_\_\_\_\_ の戦い(＝フランク王国に撃退される)

#### ◎アラブ帝国……正統カリフ時代・ウマイヤ朝は「アラブ人第一主義」

税制面で異民族の改宗者(マワーリー)を差別  
被征服民は改宗してもジズヤ(＝人頭税)、ハラージュ(＝地租)を負担  
アラブ人……ウシュル(＝十分の一税)のみ負担  
⇔コーランは「ムスリムの平等」を説く

### (3). イスラム帝国の形成

▶ \_\_\_\_\_ 朝(750～1258、首都 \_\_\_\_\_、第2代マンスールの時から)  
アッバース家の革命

◎イスラム帝国……イスラム教徒の平等  
税制改革、先進民族のイラン人を多く登用、但しシーア派は弾圧

\_\_\_\_\_ (jizya = 人頭税)……異教徒の“非改宗税”として徴収  
「\_\_\_\_\_」(ユダヤ教徒・キリスト教徒、のち他の宗教も)は  
ジズヤ納入と引き換えに信教の自由を与えられる  
※「右手にコーラン、左手に剣」という俗説は偏見である。  
\_\_\_\_\_ (kharaj = 地租)  
征服地に土地を所有するものはアラブ人も等しく地租納入

<外征> 751 \_\_\_\_\_ の戦い……唐を破る(この時、製紙法を入手)

<全盛期> \_\_\_\_\_ (第5代、786～809)  
カリフの神格化・専制君主化  
カール大帝(フランク)とも通交、バグダードは東西貿易の中心

### (4). イスラム世界の分裂

▶ イベリア半島…… \_\_\_\_\_ 朝(756～1031、首都 \_\_\_\_\_)  
ウマイヤ家の一派が建国  
929 カリフを称す

▶ 北アフリカ …… \_\_\_\_\_ 朝(909～1171、首都 \_\_\_\_\_)  
シーア派がチュニジアに建国、のちエジプトへ  
建国当初からカリフの称号使用

▶ バグダード ……946 イラン人の \_\_\_\_\_ 朝入城  
アッバース朝から全権委譲される。(→後述)

#### ◆イスラムの六信五行

六信……①. 神, ②. 天使, ③. 啓典, ④. 預言者, ⑤. 来世, ⑥. 天命

五行……①. 信仰告白(シャハーダ)  
……「アラーの他に神はなく、ムハンマドはその使徒である」と唱える  
②. 礼拝(サラート)  
……1日5回、礼拝場所＝マスジド(英語名モスク)  
③. 喜捨(ザカート)  
……貧者のために施す。富者の義務。  
現代では、制度化された救貧税(収入の約2.5%)。  
ただし、この宗教義務につけこんでの物乞いが社会問題化  
④. 断食(サウム)  
……イスラム暦9月(ラマダーン)は日中の飲食禁止  
夜いつもより食べる。子供・妊婦・身体虚弱者・戦場にある兵士は除外。  
⑤. 巡礼(ハッジ)  
……一生に一度メッカへ行く  
(但し義務ではなく、体力と財力がある者だけでよい)

#### <その他、偏見を防ぐための知識>

・対等に扱う条件で妻を4人まで持ってよい→戦争未亡人救済が当初の目的  
他の、女性蔑視と誤解されている服装などの規定も、女性を保護することが目的  
・豚肉を食べてはいけない。→衛生上の問題か  
・飲酒、賭け事は重罪。(現代では、厳しい国とそうでない国があるが)  
・利息をとることを禁止＝弱者救済  
(ユダヤ教と対立するようになった際、ユダヤ商人が利息で儲けているのを批判した)

## 2. イスラム世界の発展

### <東方イスラム世界>

#### ◎イラン人

\_\_\_\_\_朝 (874-999) ……イラン人による最初のイスラム王朝  
→中央アジアのトルコ人をイスラム化

\_\_\_\_\_朝 (932-1055) …… 946 **バグダード入城**  
アッバース朝カリフから全権委任され、武家政権確立 (≒幕府)  
自身はシーア派だが、スンナ派アッバース家と共同統治

※ \_\_\_\_\_制 ……軍人に、俸給に見合った金額を徴収できる土地の「徴税権」を与える  
ブワイフ朝が始め、セルジューク朝時代に完備  
→のち、広くイスラム世界で行なわれる

#### ◎トルコ人

トルコ人奴隷兵 ( \_\_\_\_\_ ) がイスラム各地の軍の主力となる → **トルコ人の西遷**

\_\_\_\_\_朝 (940-1132) ……トルコ人による最初のイスラム王朝

\_\_\_\_\_朝 (1038-1157) ……初代 \_\_\_\_\_ (1038-63)  
1055 **バグダード入城**、ブワイフ朝を倒す。  
アッバース朝カリフから \_\_\_\_\_ の称号を授かる  
(カリフ: スルタン=天皇: 幕府将軍)

スンナ派擁護者としてエジプトのファーティマ朝と対立  
シリア・パレスティナを支配し、ビザンツ帝国を圧迫  
⇒ヨーロッパから \_\_\_\_\_ の攻撃をうけ衰退・分裂

**ホラズム朝 (1097-1231)**  
ガズナ朝から独立しゴール朝やセルジューク朝を滅ぼす  
→チンギス・ハンの遠征をうけて滅亡

**ルム・セルジューク朝 (1077-1308)**  
セルジューク族の一派が小アジアに建国  
トルコ人の小アジア支配の始まり

#### ◎モンゴル人 ……13世紀にアジア全域を支配

1258 \_\_\_\_\_、バグダード攻略、アッバース朝を滅ぼす  
↓  
\_\_\_\_\_国 (1258-1411) ……首都 \_\_\_\_\_  
1295 \_\_\_\_\_ (1295-1304) の時、イスラム国教化  
宰相ラシード=アッディーン (歴史家「集史」)

### <中心はバグダードからカイロへ>

#### ◎エジプト

\_\_\_\_\_朝 (1169-1250) ……建国者 \_\_\_\_\_ (Salah-al-Din、クルド人)  
第3回十字軍を撃退、ファーティマ朝を滅ぼし建国 (エジプトにスンナ派復活)

\_\_\_\_\_朝 (トルコ系、1250-1517) ……第5代バイバルス (1260-77)  
モンゴル軍を撃退、メッカ・メディナの二聖都の保護者  
アッバース朝カリフの末裔を保護  
首都カイロはバグダードにかわりイスラム世界の中心に

### <西方イスラム世界>

#### ◎北西アフリカ～イベリア半島

\_\_\_\_\_人 ……北西アフリカ (マグリブ地方) の住民、11世紀に熱狂的なイスラム化

\_\_\_\_\_朝 (1056-1147) ・ \_\_\_\_\_朝 (1130-1269) ……首都 \_\_\_\_\_  
モロッコからイベリア半島にかけて支配

⇕

イベリア半島のキリスト教徒による「 \_\_\_\_\_ 」に敗退

\_\_\_\_\_朝 (1232-1492) ……イベリア半島最後のイスラム王朝  
首都 \_\_\_\_\_ の \_\_\_\_\_ 宮殿  
1492 スペインにより滅ぼされる

## 3. インド・東南アジア・アフリカのイスラム化

### <インド>

\_\_\_\_\_朝 (トルコ系、962-1186) ……インドのイスラム化の初め  
\_\_\_\_\_朝 (イラン系、1148-1215) ……アフガンに根拠を置きガンジス下流まで支配

\_\_\_\_\_朝 (1206-1526) ……インドの \_\_\_\_\_ を首都とする5つの王朝  
① \_\_\_\_\_ 王朝 (1206-90、トルコ系) ……ゴール朝の将軍 \_\_\_\_\_ が建国  
※主な君主3人がそれぞれ前任者の奴隷だったことからこの名称がある。  
② \_\_\_\_\_ 朝 (1290-1320、トルコ系)  
③ \_\_\_\_\_ 朝 (1321-1414、トルコ系)  
④ \_\_\_\_\_ 朝 (1414-1451、トルコ系)  
⑤ \_\_\_\_\_ 朝 (1451-1526、アフガニ系) →ムガル帝国に滅ぼされる

### <東南アジア>

最初のイスラム王朝 …… \_\_\_\_\_ 王国 (15c. ~ 1511)  
マライ半島・スマトラ島を支配  
↓  
ジャワ島のマジャパヒト王国 (ヒンドゥー教) を圧倒  
→ 16c. イスラムのマタラム王国成立

### <西部内陸アフリカ>

\_\_\_\_\_王国 (8c. ~ 1076) ……ムスリム商人が塩を持ってきて、同地産の金と交換  
1076年、ムラービト朝による征服→イスラム化  
\_\_\_\_\_王国 (1240-1473) ……黒人のマンディンゴ人  
首都 \_\_\_\_\_ ……内陸アフリカのイスラム学問の中心  
1324 マンサム=サウのメッカ巡礼 (途中カイロで物価暴騰をおこす)  
\_\_\_\_\_王国 (1473-1591) ……黒人のソンガイ族がマリ王国を滅ぼし建国

### <東岸アフリカ>

モガディシュ、マリンドイ、モンバサ、ザンジバル、キルワなど  
……イスラム商人のインド洋貿易の拠点  
アラビア語の影響を受けた共通語 \_\_\_\_\_ 語  
(サワーヒーリー=アラビア語で「海岸地帯の人々」)

\_\_\_\_\_王国 (14 ~ 15世紀が最盛期)、**ジンバブエ遺跡**

## イスラム諸王朝年表

世紀	イベリア半島	北アフリカ	エジプト	中近東	イラン	中央アジア	インド
7	西ゴート 711滅亡		632-61 正統カリフ時代		651ササン朝滅亡		ヴァルダナ朝 ~~~~~ 分裂時代
8			661-750 ( )				
9	756-1031 ( )		750-1258 ( )				
10		909-1171 ( )			サーマン朝 ( )		
11					932-1055 ( )		
12					1038-1194 ( )	インドのイスラム化	
13		1169-1250 ( )		ルム・セル ジュク朝	ホラズム朝 ( )		
14		1250-1517 ( )		1258-1353 ( )	チャガタイ・ハン国		ハルジー朝
15					1370-1507 ( )		トゥグルク朝
16	1492 スペイン		1453 ビザンツ帝国を滅ぼす				サイイド朝 ( )
17		1299-1922 ( )			1501-1736 ( )	ウズベク族 3ハン国	1526-1858 ( )

## 4. イスラム文明の発展

### <特徴>

- ①. 融合文明…イラン、トルコ、インドなどの文化の融合 代表例=「\_\_\_\_\_」
- ②. 普遍的文明…地域・民族の特色を越えて各地にイスラム文化圏を形成  
アラビア語とイスラム教を共通項とする  
古代ギリシア文明を中・近世のヨーロッパ人に橋渡し→ルネサンスに大きな刺激

※紙…タラス河畔の戦いで製紙法入手→サマルカンド、バグダード、カイロに製紙工場  
→13世紀にヨーロッパへ

### <社会>

都市を中心として発展…礼拝所(モスク)、学院(マドラサ)、市場(バザール)など  
軍人、商工業者  
ウラマー…法学・神学などイスラム諸学を修めた知識人(※“聖職者”ではない。)

### <学問>

- ・神学、法学…「コーラン」に基づく  
神学者\_\_\_\_\_ (1058-1111,イラン) ……神秘主義を容認  
セルジューク朝宰相ニザム=アル=ムルクの設立したニザーミア学院教授  
\_\_\_\_\_ (神秘主義) ……コーラン朗唱・踊りなどで神との一体感をもとめる。
- ・歴史…上2学の補助として、ムハンマドに関する伝承の収集・研究  
\_\_\_\_\_ (1332-1406、マムルーク朝)  
『世界史序説』…理論的歴史学  
農耕民と遊牧民の対立が歴史発展の原動力である、と説く
- ・数学…十進法と\_\_\_\_\_の観念をインドから学ぶ  
\_\_\_\_\_ (9世紀,イラン) ……代数学(アルジェブラ)、三角法の祖、天文学も
- ・物理…光の屈折理論(イブン・アルハイサム、965-1039、イラク出身,フアティマ朝)
- ・化学…錬金術(アルケミー)から発達  
→ヨーロッパに伝わり近代科学の基になる(アルコール,アルカリなどの‘アル’はアラビア語の定冠詞)
- ・美術・工芸…細密画(\_\_\_\_\_), \_\_\_\_\_ (唐草文やアラビア文字の図案化)
- ・建築…モスクには、光塔(ミナレット)が附属、メッカの方角の壁の窪み(ミフラープ)  
↑礼拝時刻の呼びかけ用
- ・文学  
\_\_\_\_\_ (1048-1131、イラン人、セルジューク朝で活躍)  
『四行詩集(\_\_\_\_\_)]』(ペルシア語による)  
※天文学者としても有名  
太陽暦「ジャラリ暦」はグレゴリ暦よりも正確だが計算が煩雑で一般には普及せず
- ・哲学…古代ギリシアの\_\_\_\_\_の哲学を学ぶ ←ササン朝の首都クテシフォンで入手  
「コーラン」編纂に役立つ  
ギリシア哲学の論理性を学びスナ派の神学体系樹立  
※代表的哲学者にして医学者  
\_\_\_\_\_ (ラテン名\_\_\_\_\_, 980-1037、サーマン朝) ……『医学典範』(→サレルノ大学 etc.)  
\_\_\_\_\_ (ラテン名\_\_\_\_\_, 1126-98) ……コルドバ出身(ムワヒド朝)  
2人の著作はラテン語訳されヨーロッパへ →“12世紀ルネサンス”
- ・地理…旅行家\_\_\_\_\_ (1304-77、モロッコ)「\_\_\_\_\_」  
※元まで旅行したとされていたが、近年の研究によればインド以東には行っていない模様